

## 議事録【要旨】

### （1）会議概要

会議名称	令和2年度 第1回泉大津市男女共同参画審議会
日時	令和3年3月26日（金）午後2時～午後3時40分
場所	泉大津市役所3階 大会議室
審議会委員 出席者	岡崎委員、高峰委員、田中委員、藤原委員、三宅委員、 向井委員、森野委員 （欠席）杉原委員、宝楽委員、山出谷委員 全10名のうち、出席7名、欠席3名
事務局 出席者	【市職員】 〈人権くらしの相談課〉野村課長、川口課長補佐、淨閑係員、 田中係員 （にんじんサロン職員）木村静代
庁内関係者	朝尾総合政策部長、 堀田子育て応援課長、金原指導課長、鍋谷生涯学習課長
会議次第	1. 開会 2. 開会挨拶 3. 案件 ①第3次男女共同参画推進計画進捗状況について ②第3次男女共同参画推進計画中間時点修正について ③その他 4. 閉会
傍聴者	3名

## （2）審議等の内容

○以下、事務局による進行

### 1. 開会（記録省略）

### 2. 開会挨拶（記録省略）

※朝尾総合政策部長より、審議会開催にあたっての開会挨拶

○以下、会長による進行

### 3. 案件

#### ①第3次男女共同参画推進計画進捗状況について

※事務局より各案件の説明（記録省略）

その後、委員による質疑応答

#### 委員からの主な意見・指摘事項等

#### にんじんサロンの登録グループの活動について

テクスピア大阪へ移転したことによって、以下の3点の問題が生じてしまう。どう考えているのか。

- ①車で来所した場合、駐車時間によっては料金が発生する。
- ②勤労青少年ホームを使用しているグループは、備品（カセットデッキ）使用の際に、借りるときと返すときにわざわざテクスピア大阪まで足を運ばないといけない。
- ③テクスピア大阪ににんじんサロンという拠点があるのに、音やスペースの関係でその拠点で活動できないグループがある。

（事務局）

- ①現在のにんじんサロンであれば勤労青少年ホームと共用の駐車場使用により、駐車料金はかからなかったが、今後はテクスピア大阪を利用する他の市民同様、3時間無料にとどまる。総合体育館など他施設においても駐車場の有料化が進むなかご理解頂きたい。
- ②備品については、サロン備品の利用の他、勤労青少年ホームのカセットデッキの利用や、グループ所有のものを使用するなど他の方法も検討いただきたい。
- ③テクスピア大阪に貸室はあるが、費用は一部負担いただく必要がある。無料での貸室使用は今のところできない。無料で使用できるように働きかけは行っていきたい。

#### にんじんサロンのNPO法人への一部業務委託について

- ①「一部業務委託」とは具体的に何を委託するのか。

- ②委託先のNPO法人にジェンダーの視点や事業企画スキルはあるのか。
- ③男女共同参画に関する事業の予算は確保されているのか。
- ④男女共同参画の担い手は市民であり、人材育成が重要となるがどのように考えているのか。

（事務局）

- ①現在のにんじんサロンは、市の職員である会計年度任用職員2名で運営している。令和3年度は会計年度任用職員が1名になり、残り1名の部分を「一部業務委託」をすることにより、主に情報収集や発信を会計年度任用職員とともに担ってもらおう。
- ②業務委託先は、実際に富田林市において男女共同参画の業務を行っていた経験がある。また、理事長は女性相談員としても活動していたことがあり、ジェンダーの視点および事業企画スキルを持っているものとする。
- ③人件費相当の委託費と事業の予算の確保はできている。
- ④担い手が不足していることは認識している。高齢化問題もあり、子育て世帯などの若い世代に担い手として活動してもらえるような仕掛けを作ることが大事だと考えている。例えば、講座参加者へ本人の了承のもと関連事業の案内を送付するなどしていきたい。

（会長）

男女共同参画の視点が、にんじんサロンにとっての生命線である。このことをNPO法人が認識し、またサロンの人たちが共有することが大前提である。それがないと他の市民活動団体と同じになる。担い手の育成においても大事なところである。

#### ジェンダーの視点について

にんじんサロンのハード面がどのように変化するとしても、男女共同参画の理念をどう表現するのか、どのように具体化し、継承していくのが大事になる。ジェンダーの視点に基づいて考えていかなければならない。子どもたちの中にそうした視点を育てていくなど担い手育成を行えば、にんじんサロンが狭くなっても、男女共同参画は発展していく。

## ②第3次男女共同参画推進計画中間時点修正について

※事務局より各案件の説明（記録省略）

その後、委員による質疑応答

### 委員からの主な意見・指摘事項等

#### 資料2-3 第3次泉大津市男女共同参画推進計画～にんじんプラン～（中間時点修正）について

- ①P. 6に“平成28年度を初年度とし、平成37年度までの10年間とします。”とあるが、平成37年という年度はすでに無いため令和7年と変更すべき。
- ②SDGsの目標としてジェンダー平等が挙げられており、現在話題に挙がることが多い。だが資料の中ではSDGsに触れていないため、P. 2の1) 国の動向の中でSDGsのことに触れた方がよいのではないかと。
- ③P. 11以降の男女共同参画の課題については、分量も多く内容把握が難しいため、要約された一文（例：「未だ上がらず」）を入れた方が見やすくなる。また、“～について”を見出して使用するのではなく、目標が何であるのか（例：意識をさらに改善する）まで入れる必要がある。
- ④第4章「施策の内容」については、あと5年でどのように取り組みを進めるのか、組織としての展望を入れるべき。（例：「DVを撲滅する」「更に取り組む」）

（事務局）

- ①訂正もれであるので令和7年に修正する。
- ②SDGsについては加筆を行う。
- ③読み手にとってどのようにすれば読みやすいのか、見出しも含め検討を進める。
- ④第4章については、現在はアンケート調査から見えた数値を入れている。どのように取り組み内容を具体化させるのか、「進捗状況調査報告書」の体裁も含めて見直しを図りたい。

#### 本市の女性の就業状況について

「M字カーブが緩やかになっている」という言葉が使用されているが、どういう意図があり、そのような表記をしているのかがわかりにくい。一方で、雇用の現場においては男女格差が大きいのでは、とアンケート結果から読み取れる。事務局としてはどのような考えをもっているのか。

（事務局）

「M字カーブが緩やかになっている」というのは、グラフを見た通りに表記しているも

の。男女の格差も作用しているが、出産・育児を行う年代において就業率が低くなり、グラフとしてM字を描く結果になっている。5年前の調査と比べて女性の就業率が上がっているのは、一つに男性の賃金の減少も作用して就業しないといけない状況になっている可能性も考えられるが、そのことのみならず様々な要因があると考えられる。

（委員）

雇用の現場で男女格差が大きいという認識の中で、雇用の機会は増えてはいるものの、実際には非正規雇用の女性が圧倒的に多い。ジェンダーの視点に立ち、非正規・正規については間接差別と捉え対策を行わないといけない問題。にんじんプランの策定背景にも非正規雇用問題が挙げられている。女性の就業率が上がっているように見えるが、正規・非正規の差を見直すという観点が必要ではないか。

（会長）

「M字カーブ」ということが自明のように使用されているが、わかりにくいということにつながってしまっている。行政が何をしたいのかという姿勢を、この5年間どうであったのかという見解と共に、どうしていききたいのかを明確にすべき。

#### 男性の参加について

- にんじんサロンが日曜日に開館されるので、男性の参加者も増えるのではと期待がある。男性の参加を進めていく必要がある。
- 各休暇制度が整っているなかで、「M字カーブ」になる理由には男性が関わっている。アンケート結果の男性と女性の差に注目する必要がある。「日本では少子化がすすんでいます。その原因は何だと思えますか。」というアンケートの中で、男性は「育児の相談や手助けをしてくれる人がいないから」と答える人が多い一方で、「配偶者が家事や子育てに参加しないから」と回答する人は少ない。男性が自分事としてとらえる必要がある。課題である。
- 子育て世代に男性の仕事が忙しくなることがあり、企業も仕組みを整える必要がある。

#### 今後について

（会長）

各部局で行うことが細分化されている。それぞれが前向きに真剣に取り組んでいるものの、どこへ向かっているのかについて一定の価値観を皆が共有することが必要。ジェンダー平等、男女共同参画のために頑張っていることを皆が理解すべき。そのためにも、皆が共有している目標のSDGsの考え方を利用すべき。

③その他

※事務局より今後の審議会スケジュールについて説明。

○以下、事務局による進行

**4. 閉会**（記録省略）